

(メッセ海外通信 VOL.46 2018年7→9月号掲載記事)

～釜山広域市オ・ゴドン新市長の市政構想について～

下関市総合政策部国際課

(釜山広域市派遣職員)

白野 哲

去る6月13日に韓国の統一地方選挙が実施され、与党「共に民主党」が圧勝し、17カ所の広域自治体の首長選で14カ所を抑えて勝利しました。ソウル市、仁川市、京畿道の首都圏3カ所で全勝したほか、保守色の強い釜山市、蔚山市、慶尚南道でも勝利を手にし、史上最大の勝利を収めました。

釜山広域市もソ・ビョンス前市長（自由韓国党）からオ・ゴドン市長（共に民主党）に替わり、今後市政方針の見直しも予想されます。現時点では、まだ具体的な施策は発表されていませんが、去る7月2日に行われた就任演説の中で、今後4年間の市政構想が発表されたのでご紹介します。

・北東アジア海洋首都釜山の確立

環太平洋中心都市釜山の条件を生かし、物流と海洋産業の発展のために先進的な施設と装備を備えた超大型港湾や24時間稼動可能な国際空港、ユーラシア大陸へと続く鉄道を備えたトライポートを建設し、世界の物流のメッカとして第4次産業革命の時代を迎え、最先端の知識産業の育成を積極的に行う。

・市民が幸せな都市の建設

福祉の拡充に力を入れ、公園やスポーツ施設を増やし、若者たちが心配することなく育児に専念できる社会を作る。そのために、子供や女性の安全対策、効率の良い災害対策、原子力発電所を安全に運用し

ていくための対策を用意する。

また、公共部門や青年義務雇用（公共部門のインターンシップ受入義務）の拡大など雇用創出にも力を注ぎ、文化芸術を振興し、「小確幸（小さいけれど確かな幸せを意味する作家村上春樹の造語）」の実現を目指す。

・市民とコミュニケーションする市長

コミュニケーション・融和・実行のリーダーシップで釜山を再構築し、市民が主人公の市政を行う。また、企業家や市民社会、知識人、政府関係者などを訪問し、釜山発展のために必要な知恵を集約し、必要な支援を受け入れていく。

・加徳島新空港の建設

釜山が北東アジア海洋首都に成長するためには24時間安全に運用できる空港が必須である。しかし空港関連の専門家によれば、現在推進中の金海新空港は騒音問題で24時間運用が事実上不可能であり、安全面での障害が多いと指摘している。騒音公害対策と代替地の用意など障害が多く、新しい滑走路の建設も容易ではないと予想される。空港は国家の重要な基幹産業であるため、地域や政治的な利害関係に振り回されずに国家の長期的な発展計画に合うように建設されなければならない。南部圏の中心空港になる金海新空港が自らの役割を十分に果たすことができるようにするため、釜山・蔚山・慶尚南道をはじめとして大邱・慶北と慎重な協議を経て実質的に24時間安全に運用できる加徳島新空港建設計画を推進していく。

上記4項目がオ・ゴドン市長の骨太政策として発表されたわけですが、今後どのように公約を実現していくのか、その手腕に期待が集まるところです。そして、釜山広域市が今後どのような成長を遂げていくのか今から楽しみです。



【釜山広域市役所全体図】



【オゴドン釜山広域市長】